

今回ご紹介する方は、前々号のはびはりの「トコトコ街とこ」で取り上げた「Balloon Shop e-smile」の店主を務める伊藤広海さん（通称：ろみひー）です。前回の取材時に受けた仕事への情熱や、子ども達の未来のために！みんなを笑顔に！と熱心に語る、ろみひーさんのその魅力に引かれ、今回の取材をお願いしました。

カラフルで華やかな店内に入ると、とても背が高く体格のいいろみひーさんが、店内の雰囲気になじめないくらい明るい笑顔で、奥さんとスタッフとともに迎えてくれました。風船職人として、様々な会場でバルーン・アートのイベントを行い、時には自ら仮装してイベントに参加しておられることも…。バルーンアートに出会うまでは、とてもニツカポツカを履いて10年以上鉄筋屋で働いていたと想像付かないです（笑）

や人の人生に影響を与えられることをしたい」「幸せの波紋を起したい」と模索しているところ、偶然にもバルーンアートと出会い、そこから全て独学で学び、現在の地位を築いてきています。またこの高砂の地にも、播磨町で生まれながら、人との出会い、高砂キッズ・スペースとの出会いを通して、たくさん笑顔を与えてくれています。

また、自身の行っている活動を通して、今後未来を背負って立つであろう若者（特に学生）との交流を積極的に図り、自分のやりたいことを通じて学び、モノ作りに関わらず、何か学ぶきっかけになってくれればと考えています。モットーは「適当」ということです。が、もちろんいい意味の適当で、その場その場、その人その人にとってのベストを考え、何事にも出来ないとは言わずに、まずは出来るようなことから提案し深めていくお手伝いをしているのだそう。昨今の、モノ作りに対する若者離れにも危惧しており、各イベントや体験を通して、子ども達に作る楽しさを知ってもらい、色んな見方や、様々な考え方を持つようになってもらいたいと願っています。

最後に、ろみひーさんにとってバルーン・アートとは…？  
「年齢・性別・国籍関係なく、皆が幸せになる便利なツール」  
これから先ますます、この高砂の地を中心に、カラフルなバルーンに負けないくらいに、笑顔の波紋があらゆるところで広がっていくことでしょう。



そのろみひーさんがバルーン・アートに出会ったきっかけとして、20代の頃に一人の笑顔にな

るようなこと



# Balloon Shop e-smile 伊藤広海さん

誰もが遊べる神経衰弱に、3枚や5枚の同じ絵という要素を加えた、悩ましくて新しいゲームです。自分の番になったら、裏返しの手札から1枚めくってその絵柄を確認します。ニンジンなら2、ヨットなら4、書かれています。枚数だけ同じ絵柄を続けてめくることが出来れば成功で、1枚1点としてもらえます。でも途中で違う絵柄をめくってしまうと失敗し、次の人の番になります。最初は失敗続きでも、色々な手札がめくられていくと次第に狙えるものが分かってきます。ただ、タイルの絵柄には、大根と人参、サンタと泥棒など紛らわしい絵柄が交ざっていますので、惑わされないようにしましょう。こうしてゲームを続けていき、一番多く点数を取った人が優勝です。

単なる神経衰弱のルールに新たな要素が加わり、大人も一緒になって楽しめます。子どもには、やはり鉄板なのかゴリラや泥棒の絵が大人気で、めくるたびに異様な盛り上がりになります（笑）大人は地道に2枚、3枚と狙いますが、子どもは大胆に4枚、5枚とチャレンジする傾向が見られ、親子でやるのもとても楽しいのでぜひおススメしたいです☆☆

ほっくりんの  
親子で遊べるドイツゲーム

## 第7回目 『イチゴリラ』

対象年齢 3歳から  
所要時間 10分  
連続枚数を狙え  
ドラマチックな神経衰弱

